

令和 7 年度

運営に関する計画



大阪市立大東小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立大東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

● 生活指導面

- 児童の中に「きまりは守らなければいけない」「自分にはいいところがあるんだ」という意識が浸透し始めているが、令和6年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対する肯定的回答の割合は、92.0%で前年度より1.8ポイント向上しているが、目標の93%には到達しなかった。
- ポジティブ行動支援を進め、児童の自己肯定感の向上に取り組んできたが、令和6年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童は83.0%と明らかな向上は見られなかった。児童の自己肯定感や自己有用感を高めつつ、互いに尊重し合える人間関係を築く指導を継続してかなければならない。

● 学力・体力面

- 学力においては、令和6年度小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比は以下の通りとなっており、改善傾向にあるものの、「主体的・対話的で深い学び」に向けた実践を継続していく必要がある。

3 年		4 年		5 年		6 年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
98.1	99.7	101.4	100.6	102.0	100.9	98.6	103.7

- 体力向上については、令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的回答が男子で88.9%（市は93.4%）、女子で82.2%（市は84.5%）といずれも低くなっており、引き続き運動意欲と体力の向上を図る教科指導や体育的行事等の充実を図っていかねばならない。

● その他

- 一人一台端末の活用については、児童の興味・関心は高まっているものの、「心の天気」の入力を徹底するなど、当たり前にするところのできるような習慣化が必要である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R3 78.1%)
- 令和7年度末の学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R3 70.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査で主体的な学びにかかわる質問の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R3 83%)
- 令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において合計得点を令和3年度より向上させる。(R3 男子54.6ポイント 女子54.8ポイント)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査で「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」に対して毎日と回答する児童の割合を90%以上にする。(R3 78.0% ただし毎日使っているかどうか尋ねていない。)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R3 78.0%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R06 : 92.0%)
- 学校生活アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 98%以上にする。(R06 : 96.9%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。(R06 : 83.0%)
- 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R06 : 86.0%)

【学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より 0.5 ポイント向上させる。(R06 : 3年 98.1、4年 101.4、5年 102.0)
- 本校独自実施の 1・2 年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1 年は100.0 以上にし、2 年は1 年次 (94.7) と経年比較し 0.5 ポイント以上向上させる。
- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3 年は 100.0 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 43%以上にする。(R06 : 39.0%[3年 42.9%、4年 43.1%、5年 45.5%、6年 24.5%])
- 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。(R06 : 58.4%)
- 学校生活アンケートにおいて、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(R06 : 61.8%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）(R06 : 20.2%)
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 65%以上にする。(R06 : 60.0%)
 - ※ 基準 1 : 「1 か月の時間外勤務が 45 時間を超えない」かつ「1 年間の時間外勤務が 360 時間を超えない」

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式2)

大阪市立大東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。(R06:92.0%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を98%以上にする。(R06:96.9%) ● 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。(R06:83.0%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「自分にも友だちにもいいところがありますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R06:86.0%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○ きまりを守り、安心して楽しい学校生活が送れるよう、児童の道徳心や人権感覚を醸成する取組を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ 「学校のきまり」のあいさつに着目し、学期毎に児童会活動や登校班のあいさつ運動に取り組み、児童がきまりを守れるように意識の向上に取り組む。</p> <p>➤ 教室に「学校のきまり」を掲示し、きまりを守れているか学期毎に振り返りを行い、できていることを称賛しつつ、以降の学校生活に活かせるようにする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】</p> <p>○ 「エビデンスベースの学校改革」導入校として、「ポジティブ行動支援(PBS)」に取り組むことで、児童が自己肯定感を高め、自分や相手を認めることのできる集団を育成するとともに、落ち着いた学習環境の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ 「エビデンスベースの学校改革」導入校の研修会等に年3回以上参加してPBSの取組についての知見を得るとともに、校内伝達研修を行う。</p> <p>➤ 各学年で実態に合わせたPBSの取組を行い、毎月の職員会議に合わせて実施状況や児童の様子等について共有し、学校全体の取組に活かす。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	
②	
後期への改善点	

①

②

(様式2)

大阪市立大東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年においても前年度より0.5ポイント向上させる。(R06: 3年98.1、4年101.4、5年102.0) ■ 本校独自実施の1・2年全国テストにおける、国語の平均正答率の対全国比を、1年は100.0以上にし、2年は1年次(94.7)と経年比較し0.5ポイント以上向上させる。 ■ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、3年は100.0以上にする。 ● 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を43%以上にする。(R06: 39.0%[3年42.9%、4年43.1%、5年45.5%、6年24.5%]) ■ 学校生活アンケートにおいて、「みんなの力で考え、調べ、話し合ったりしながら授業を進めていますか」に対し、最も肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。(R06: 58.4%) ■ 学校生活アンケートにおいて、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。(R06: 61.8%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 基礎・基本の定着と個別最適化を念頭に、国語科の学習指導を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 有識者を招聘し、国語科の指導力向上に向けた校内研修会を年2回以上実施する。 ➢ スキルタイムや家庭学習等を活用して、週1回以上国語のデジタルドリルに取り組ませる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」の推進、言語力・読解力・コミュニケーション能力の育成に向け、授業力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「主体的・対話的で深い学び」に係る伝達研修や実践報告を、各学年を主体として、<u>年6回以上実施する。</u> 	

<p>取組内容③【基本的な方向番号 8、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ポジティブ行動支援（PBS）」のアプローチを活かした体育科の授業研究を進め、運動やスポーツにおける有能感や達成感を味わわせながら、児童の運動意欲の向上を図る。 ○ 体を動かす楽しさや素晴らしさを感じられるような体育的行事・取組を実施する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 体育科において、児童の有能感や達成感の向上を目指す授業を進めるため、大学教授を講師として招聘し、授業研究会を年 3 回以上実施する。 ➤ 年 3 回以上の出前授業や特別授業により、多様な運動・スポーツと出会う機会を設けるとともに、従来の体育的行事においても「体を動かす楽しさ」を視点としてプログラムや実施方法の改善を実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>	
後期への改善点	
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>	

(様式 2)

大阪市立大東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) (R06 : 20.2%) ● 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 65%以上にする。(R06 : 60.0%) ※ 基準 1 : 「1 か月の時間外勤務が 45 時間を超えない」かつ「1 年間の時間外勤務が 360 時間を超えない」 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向番号 6、教育 DX の推進】 ○ 児童が、学習者用端末を日々の学校生活の中で日常的に使うことができるよう、使用場面や使用方法の工夫を図る。 ○ 学習者用端末をスムーズに使用することができるよう、児童の発達段階に合わせて必要なスキルを身に付けさせる。	
指標 ➤ 「心の天気」の入力を朝のルーティンとして実施する。生活指導部と連携し、登校後に児童が行うことを発達段階に応じて定める。 ➤ スキルタイムにおいて、情報活用能力（タイピング等）を月 3 回以上実施するとともに、学年に応じた「情報活用能力到達目標」を設定し、児童の情報活用能力の向上を図る。	
取組内容② 【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ 教職員のワーク・ライフ・バランスの調和と「働きがい」の醸成を進めるべく、教材研究や児童と関わる時間を確保する。	
指標 ➤ 全学年で「教科担任制」を導入し、児童一人ひとりを多面的に評価・指導・支援するとともに、教員が授業準備する教科をしばることで、教材研究に充てる時間の確保と児童にとってより充実した授業の提供を目指す。 ➤ 学校行事（4 時間授業等）を除く、「5 時間授業日」を年間 15 日以上設定する。(R06 : 11 日)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	
②	

後期への改善点	
①	
②	

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大東小学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】
年度目標：【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】
年度目標：【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

3 今後の学校園の運営についての意見

--